

35年間に感謝・感謝

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
10代会長（平成17年度～平成25年度）小川 清



拝啓

初夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

さて、私議5月31日をもちまして公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の会長を退任致すことになりました。浅学の身でありながら、多年にわたり埼玉県診療放射線技師会の役員として診療放射線技師の資質向上、診療放射線技師会の進展、発展に微力ではございましたがお力添えが出来ましたことは、一重に先輩諸氏の皆

様、理事の皆様、そして職場を共にした埼玉医科大学病院、埼玉医科大学総合医療センターそして小川赤十字病院の技師の皆様感謝し、ここに心よりお礼申し上げます。

1979年（昭和54年）上司から「俺の代わりに理事をやってくれ」と言われ、気が進まないまま引き受けました。学術理事としての委員会活動は他病院の方々と情報交換でき、大変勉強になりましたが、理事会は退屈でつまりませんでした。当時はメールなどの情報伝達手段がなく末端の理事まで情報が来るときには全て決まっていた。特に大きなイベントである、日本放射線技術学会関東部会埼玉支部開催についても、外野席扱いにてさみしい思いをした記憶があります。その後、平成7年2月川口リリアにて開催された関東部会は実行委員長として活躍する場を与えられたことは嬉しかったです。本会でも1982年から学術大会を開催してきましたが演題数、参加者数はさみしく、その後、会員目線からさいたま共済会館、ソニックシティ、県民活動センターと会場を変更し、年々盛大に実施できたことが現在の学術大会の隆盛につながっていると確信しています。また早くから副会長として対外的な場を与えられ、日本放射線技術学会理事の経験も踏まえて活動できたことはラッキーだったと思います。会長職としての3期6年は私の温めていたことや、日常の勤務・生活で感じたことを技師会に生かすべく提案し活動しました。後半3年間は自分からあえて動かず、副会長をはじめとする担当理事をお願いして、公益社団法人化や学術大会、高等学校での講義など積極的な取り組みで実現してきたことに感謝します。

これからは会長としての経験を生かし、また皆様のご教示を教訓として、皆様のお役に立てればと考えております。現在、日本診療放射線技師会環境省委託事業責任者として週4日、日本医療科学大学非常勤講師として週1日、土日は日本診療放射線技師会活動として忙しい日々を過ごしております。どうか今後とも一層のお引き立て宜しくお願い致します。最後になりましたが、皆様のご健康とますますのご発展をお祈り致します。

敬具

役員歴

昭和54年4月～昭和56年3月
昭和59年4月～昭和61年3月
昭和61年4月～平成3年3月
平成3年4月～平成5年3月
平成5年4月～平成17年3月
平成17年4月～平成24年3月
平成24年4月～平成26年3月

埼玉県放射線技師会理事（学術担当）
埼玉県放射線技師会理事（学術担当）
（社）埼玉県放射線技師会常任理事（学術担当）
（社）埼玉県放射線技師会常任理事（総務担当）
（社）埼玉県放射線技師会副会長
（社）埼玉県放射線技師会会長
（公社）埼玉県診療放射線技師会会長

巻頭言

- | | | |
|----|----------|--------------------------------|
| 1 | 1991年2月 | 美しい花 |
| 2 | 1994年4月 | あいまいさ |
| 3 | 1996年11月 | これからの埼放技 柔軟な組織こそ生き残れる |
| 4 | 1997年12月 | 世代別放射線技師の役割 |
| 5 | 1999年9月 | X線発見100年 新時代へのスタート タテ、タテ、ヨコ作戦 |
| 6 | 2003年9月 | 線量管理、機器管理は放射線技師の責務であるが..... |
| 7 | 2005年4月 | テゲ テゲ |
| 8 | 2005年7月 | 日本放射線技師会と協働したいのだが..... |
| 9 | 2005年9月 | そして、これから |
| 10 | 2005年11月 | なぜ、いま |
| 11 | 2006年1月 | 日本一の努力をして日本一になろう |
| 12 | 2006年3月 | 信頼される医療を目指して |
| 13 | 2006年5月 | バトンタッチ |
| 14 | 2006年7月 | 個人プレーからチームプレーへ |
| 15 | 2006年12月 | 淘汰と再編 |
| 16 | 2007年1月 | 改革は信頼できる人の手で |
| 17 | 2007年4月 | フェイヨルの渡り板 |
| 18 | 2007年7月 | Second Stage Start |
| 19 | 2008年3月 | あいさつは明るく元気にこちらから |
| 20 | 2008年5月 | 職能団体の衰退につながる..... |
| 21 | 2008年7月 | いきたくないところ |
| 22 | 2009年1月 | 当たり前前を当たり前 |
| 23 | 2009年2月 | 不確実性の時代に |
| 24 | 2009年5月 | ゴールを目指して |
| 25 | 2009年7月 | 散歩のついでに富士山に登った人はいない |
| 26 | 2010年1月 | オープン・イノベーション |
| 27 | 2010年6月 | おわるもの、はじまるもの |
| 28 | 2010年12月 | 今を生きる |
| 29 | 2011年6月 | 錨をあげて |
| 30 | 2011年12月 | 創立60周年を迎えて ー放射線技師会から診療放射線技師会へー |
| 31 | 2012年3月 | 記念誌 創立60周年を迎えて「やっつけ仕事になっていないか」 |
| 32 | 2012年6月 | より医療に貢献する診療放射線技師に |
| 33 | 2013年2月 | ー指示受けから提案、そして判断、実施へー |
| 34 | 2013年8月 | 我々の将来は約束されていない、切り開いて進むのだ |
| 35 | 2014年1月 | 促す |
| 36 | 2014年6月 | 自らの知徳を磨け、そして生かせ |

副会長を退任するにあたって

前副会長
橋本 里見



平成 25 年度をもって公益社団法人埼玉県診療放射線技師会（以下、本会と言う）の副会長を退任することとなりました。平成 7 年度の編集委員から始まり平成 25 年度まで 20 年近く本会の事業に執行部の一員として関わったことにより、多くの人生経験を積ませていただいたことに現役員、また歴代役員、そして関係各位に深く感謝申し上げます。

思い起こしますと、平成 7 年度山岡元会長時代に職場の先輩から本会の編集委員をやってみないかと声を掛けられたことが役員歴任のきっかけでした。そして、その先輩が平成 9 年度に理事を退任し交代するかのよう編集担当の理事にと藤間元会長から勧められ、理事として本会の事業に関わることとなりました。この 2 年間は、理事といっても石栗元編集担当常任理事の手伝いをしていただけで、会誌原稿の校正も誤字脱字を直すだけの、未熟な原稿校正をしていたように記憶しています。平成 11 年度から編集の常任理事となり、不安を抱きながらも編集委員会のメンバーに助けられたおかげで無事に 2 年を過ごすことができました。平成 13 年度からは学術の常任理事に任命され、戸惑ったことを思い出します。編集であれば 2 年間の経験を基にとりあえず事業をこなせるかと思っていたところ、学術とは一番向かない事業を担当することになってしまいました。ならば「前任者の石栗元常任理事の行った学術事業を継続開催し、新しい企画を取り入れられれば良いかな」と思っていた矢先に、平成 14 年 6 月北関東地域放射線学術大会が越谷市で開催されました。この学術大会で副実行委員長を担当しましたが、何もできず藤間元会長、小川前会長の後ろ姿を追っていただけだったような気がします。平成 15 年度から平成 16 年度までは総務担当の常任理事を、そして平成 17 年度から 20 年度までは会長職が藤間元会長から小川前会長に受け継がれ、引き続き総務担当の常任理事に任命されました。総務担当の 6 年間は、会の会員データベースの管理を主に、広く浅く会運営のお手伝いをしたように記憶しております。この 6 年間では、会員証の発行、ロイヤル会員親睦会など初めての事業に取り組むことがあり、今思うと一番モチベーションの高かった時期だったかもしれません。平成 21 年度から平成 25 年度までは、小川前会長から副会長に任命されました。この期間は、皆様ご存知のとおり公益法人改革により、社団法人が一般と公益に別れ、どちらかを選択し準備する時期となりました。理事会や公益社団法人改革検討小委員会などで十分な議論を重ね約 3 年間検討した結果、公益社団法人を選択しました。

つい長々と思い出話を綴ってきましたが、この 17 年間の役員経験で一番貴重な財産になったのは人脈です。役員肩書きをもった活動により人脈が広がりました。診療放射線技師だけではなく、他の医療職、埼玉県庁職員、税理士、司法書士などいろいろな方とお付き合いさせていただき見識を深められたような気がします。この経験は役員を長く歴任できたためであり、本会には大変感謝しております。

平成 26 年 5 月 31 日の定期総会で田中宏会長を含めた 20 名の理事が就任されました。小川前会長と私が退任したことで、理事の平均年齢がかなり若返ったと思います。今後は、現在まで諸先輩方の努力により輝かしい歴史を作り上げてきた本会が、益々発展していく姿をもう少しの間、違う立場で協力できればと思っております。

会員の皆様、ありがとうございました。

退任にあたり

前公益委員会常務理事
中村 正之



私は理事として、第5地区で4年、公益で5年の計9年間、関わらせていただきました。

皆様には大変お世話になりました。

いつかはこの原稿を書く時が来るとは思っておりましたが、今なんとなく寂しさも感じています。

小川会長はじめ、多くの役員の方に助けていただきながら大きなトラブルもなくこの時を迎えることができました。心からお礼申し上げます。

会員数170人、第5地区での理事。責任も重く大変緊張したことを覚えています。地域的に縦長の位置であり移動が容易ではなく勉強会などの集まりは数人または役員のための時もありました。そんな中ではありましたが素晴らしい地区役員の方にも恵まれ、さいたま赤十字病院 尾形氏、埼玉県立がんセンター 田中氏の両講師にご依頼し、乳腺撮影の勉強会を開催致しました。当初、参加予定者は20人程でしたが、予想をはるかに上回る70人を超える会員の方に参加していただきました。第5地区としては、今までにない驚きと感動を受けました。その後も東京第16地区との合同勉強会や、越谷市民まつりに参加しました。越谷市民まつりにおいては、公益活動として医療画像展の開催を行いました。特に定番の超音波式骨密度測定は大人気でした。同僚からは「理事は大変でしょう」とよく言われましたが、役員会やイベントの後には毎回反省会として、皆で美味しいお酒を呑みに行きました。本当に楽しい思い出がいっぱいです。

公益委員会では常務理事としてさらに緊張があり川田常務理事の後任として活動させていただきました。公益活動として会員の方の施設を中心に漏えい線量測定を行いました。平日に行う事が多く、日程調整が難しいところ星野理事をはじめ、公益委員会の方々に助けていただきました。本当にありがとうございました。また2ヵ月に一回の割合で各地域に会場を設けて被ばく相談や医療画像展、学術大会で県民公開講座などを行いました。県民の皆様との交流を図ることができ、微力ではありますが日本診療放射線技師会のお手伝いをする機会も与えていただき、私自身の行動範囲も広がり多くの方々と関わらせていただくことで、たくさんの勉強をさせていただくことができ、大変貴重な体験をさせていただきました。会員の皆様には一人でも多くの方に理事を経験していただきたいと思います。埼玉県診療放射線技師会は社団法人から公益社団法人に移行となり、更に発展すると願っております。

最後に、大変お世話になりました、本会役員、第5地区役員、公益委員会、会員の皆様ありがとうございました。心より感謝申し上げます、ますますの発展とご多幸を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

退任のご挨拶

前顧問
和田 幸人



平成 21 年 5 月、小川清会長より埼玉県診療放射線技師会顧問への就任要請を受け、顧問として 5 年間の任期を勤めてまいりました。この度、退任するにあたり職責を果たしたか甚だ疑問ですが、こうしてお世話になりました皆様方に、退任のご挨拶ができることを深く感謝致しております。

私は顧問就任時、歴史ある埼玉県診療放射線技師会顧問への就任要請に、顧問としての職責が全うできるか些か逡巡いたしました。埼玉県に在籍する診療放射線技師の一員として、長年ご指導を賜った先輩、また、広くご厚誼頂いた技師諸兄へ幾許かのご恩返しが出来ればと受諾した次第です。この 5 年の間に特段ご披露すべき事項も無く忸怩たる思いですが、任期中、埼玉県診療放射線技師会館にて開催される理事会などに、小川清会長はじめ各理事役員の方々と同席し、皆様方の熱意溢れる討議を傾聴できましたことは、私にとりまして大変貴重な充実した時間でありました。

2005 年、グルジアのドマニシにて発見されたホモエレクトスの頭蓋骨の発見は、我々医療・介護に携わる者として衝撃的でした。175 万年前の高齢男性の顎の骨は、死の数年前より歯が全くなく、原人が介護を受け生活していた痕跡を証明したからです。我々ホモサピエンス誕生 150 万年前の原人が、2 足直立歩行と手で道具を使う人類を定義する本質の一つとされる「互いを支えるケア」つまり、介護の意識を具備していたのです。我々人類は、誕生時既に「互いを支えるケア」の意識を持ち、歴史の経過の中で脈々と介護（ケア）の DNA を心奥に醸成していたのです。

診療放射線技師会の中でも埼玉県診療放射線技師会は、歴代の指導力溢れる会長と熱意ある優秀な役員方のご活躍により、種々開催される研修会などの多岐に渡る活動内容から、常に他県技師会から注目を集めています。埼玉県診療放射線技師会が、今後とも会員数 1, 200 有余名を擁する診療放射線技師の職能団体としてさらに発展するためには、全会員が DNA の中に潜在的に醸成された「互いを支えるケア」に覚醒し、誇りある埼玉県診療放射線技師会を支え得る会員となる必要があります。必要ではないでしょうか。

結びに、田中宏新会長の新体制の下、埼玉県診療放射線技師会の益々の発展と、新年度からの新役員の皆様方のご活躍をご祈念申し上げまして、顧問退任のご挨拶に代えさせていただきます。長い間、ご支援頂きました皆様方、本当にありがとうございました。

以上